鳥羽屋実記

巻一

へ13
3382
21

へ 13
3382
21

四
尾定

大正十八年九月寄贈
本大学出版部

参議榮

一 善を勧め悪を懲らしめ
世の中
附 殘金を以て人を助ける事

月 録

奥羽記略初実記巻之壱

[illegible]

きゝ[illegible]事

附 [illegible]人を助[illegible]

所[illegible]

きの一組の[illegible]

[illegible]

云なかし主人の金子をまき
ちらし又は何かとり真似
尽しく酔ひこそ前後も
忘じばかり中々かゝるが不斗
腹立りじれば我らしく
間をとらぬし酒もかしい気
のかればたゝきりおじやしさこと
理屈まぜん主人のつかひ

来りしてより差あるけし
さへ中々請あきり此じる添り
立来りし百両の金子
遣ひ捨るうつゝいうじしく
主人もうく病など申し十方
にくきまく古息を継つ様に
暮りしよ御處をば
よみ候防す色々をあらん

ざ少しもちゆく夜の明ぬ
うちと青楼をとくも出ゆく
大門を出てざんげしき角より
ゆきさしが心もこう行ましば
梅のうちより紙葉のつけ
中もあく訓演このうへには
命をたてるより和らならし
わかれしとゆうらうらしくえんと

いひうるも出来ばうまとを
あかし世の物ろく半ぎんと
降梅換をとうしもまづき
まうあくぶじましと気わり
就りうちおり当ちなどり
依りいつわよいわり付
よう若をいがみを楼ならう
不都しし若妻楼の行うう

まく鏡(き)くもりなく苦行(くご)ば
きこしめし此(この)若君(ぎみ)を
なげける所(ところ)にてその持(もち)のうへ
ありしとう行をさだめく
主人(しゆじん)のことをうし評(ひやう)詞(げ)
おぼしし親(おや)のことは御(ご)詞(こと)
まし主(し)りたまはば持(なし)のうへて
きこしずみ所(じ)人(ひと)〳〵まで

明(あけ)はかへやき七(すなぎ)ツ(ぶ)し
り何(なに)との無(ぶ)じんとしかし
ふぢをしもしうしまゝ是(これ)
ねがひも次(つぎ)い付(つけ)おりしひ話(げ)
ひろゆり持(もち)のうくうけあへ面(めん)
をと言(ちが)ひめみ(じ)みとかじり合(だん)
そうゆ起(ちよ)ひくぞしく
所(きげ)行りてこちゆうここそう

うぐひす殿の家より かの男い
樽のたもとに 角ばりてゐれ
を 殿ひ給ふ 袖つぼ
てまもなく 樽のうちに かぐや
姫 出でて 余党をして 樽の
くちのうちより 唱
てけるや 川中に 和の
中にて 芸 出を

ぬく ちからをいれ 地ぐ 給ふ 和さて
我 ゐ おもひ給へ 男を 投げ
男へ 角 角 もぐ
男 つ 日 の 不 沒
何 ゐ ゐ 給 ま げ 一 ゐ
中 と を 殿 の ま へ
ま く 男 御 け ま る
給 ば 給 生 の ま 御 け

[illegible]
[illegible]
をきげく三度の川乃屋
づきうしあ[illegible]
ん を ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
たさうのうい[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さて一部の親も家に
少を拵へ
ものと
ものとまづ
事のやうを
かの男いそぎ
じ
ものいふこと
事い事
はものをきてまづ

二月の日
ものらく
ものいそぎ
かしら一
角田のものを
ものを拵へ
事ものいふ

みてゆ其うへ分れし節の
ころ親類どもハ兄弟二千両
是ありてハ親のなへ譲を
つけれハしやうぶん新造の身
をきてんより分別しこく
悪性きまゝ身を持くんと
ころけ遣ひころ分限ころみ
こゝろよう身を持んりのと

ゆるめり隠居始つくしと
是我世中そのくを入りり
そをいよ心ろうもも思ハ
まし便ろし不便に成り
ろミくハつらし老らるに不斗
ろ汐付紙を嬉中にまひ
ゆろりの金子二千両ばかり
はの金子をとりし者ありをしば

今世しをかりり二千両の金
うりまうりて孫うり来うり
しといふ事もまいを二千
両の金子をうけとりしかいうて孫
めうりい及はぶまし孫ろみち
二千両の金にまいらしてあけ
まいしとて孫んて見事めの六
そ陸さくなきい事の[illegible]

ありしと[illegible]をさだめての
用りむかひて[illegible]ひろく
[illegible]向い[illegible]い[illegible]けりい
その二千両の金子さつまへバ
孫めうろりい[illegible]りぬしとそ
しもりかのその中にい[illegible]
よりも[illegible]の[illegible]ふり二千両の金
みきへ[illegible][illegible]くい[illegible]し

とても命(いのち)を惜(お)しく候

扨(さて)もしも世(よ)の中(なか)り出来(でき)や

さくしくもしき取(とり)ならうき

まみい金(かね)うく様(さ)し世(よ)り

いふ金銀(きんぎん)が数(かず)の世(よ)の中(なか)しくて

よくもいひしまのあるとそ

息(いき)つぎてやくらう乱(らん)

急(いそ)ぎ懐中(くわいちう)より二千両(りやう)の

金子(きんす)を取(と)り出(いだ)して申(まを)すには

金(かね)さへあればそれにて不用(ふよう)の

金子(きんす)三千両(りやう)をまいるこの金(かね)

二十両(りやう)を光度(きりん)つりをといては

へしうの金子(きんす)ゆへ家(いゑ)を助(たす)

かりくなををまもらふきて十

まこうの十両(りやう)を拾(ひろ)ひ帰(かへ)りて

斎(かう)わらき路(ろ)て見(み)ひ世(よ)まれし

其利念仏の一遍を
よくよく自らの心へ申し込
此みちは彼身は徳なり
仰天しくしく志はしくえいふし
わりうしし菩薩は今は
其の身は悉く重き罪は我を
忽ち地獄の楼の上より
生まれて川中へ出んとする

をひとつかの若き人おじ
諸の事にくらしぬ世の方へ
随ひて自らのこの食子をいく
たくさまくうし御りて行く
たさむさと大数しく御縁
身をやまずしと云ひける
百んと思ひえんとぞふ
そしつらんひとしくみしまし

勝ちきてやりしといふより
寄らく出ゆる金を出させ
ひとつんとたましとれる
勝負ざらり勝のぬけしく
善悪損をふりいやしたら
りけしぞちまつれし金子か
ひまいとて物かつきりはる
あし候おさめいあて益誘し

好くて事の気つきまり
まで不用の金銭り費度まい
は今金子かあまいなめるけい
及いぬるの事おさまいふ
まりか二人なるんよりと
親し一人なく来作と物かる
か理の高然まげくされ
金持かつりて命をまもるふ

尾定

人みぢせんなる白鬼と

さけ〻あまて加〻てまちあり

烏羽屋政談実記卷之四終

烏羽屋政談実記卷之五

仇とまの物

夜でさわぐ鳥羽屋騒動記

ほ〻とだやし〻んで金のどつれて

仇をのむ仇やどそし〻ほうの

仁義禮智信

みやおいさねつりて